



学校だより

令和3年度 5月号
令和3年 4月30日
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

言語環境を整える

校長 小林 正樹

校地内外のあちこちにいろとりどりの花が咲いています。

毎朝、地域の方々に見守られ、元気に登校している生徒たちを迎えて、1ヶ月が過ぎました。1年生の皆さんにとっては中学校生活に慣れるのに精一杯でしょうが、日に日に大谷口中学校の制服やジャージ姿が似合ってきています。また、仮入部した部活動での練習や、教室での授業の様子などから、新しい生活への意欲やひたむきさが伝わってきます。どうか、この時期の新鮮な気持ちをいつまでも忘れずに立派な大谷口中学校の生徒に成長してほしいと期待しています。



2、3年生は様々な活動に一生懸命取り組んでいます。授業では真剣な態度、休み時間ではすばらしい笑顔、そして、学年レクでは生徒と先生たちが一緒になり、グラウンドから大きな掛け声が聞こえたり、音楽室から美しい歌声が聞こえたりしてします。

さて、私は、たった一言の言葉が、その場の雰囲気や和（なご）ませたり、感動を与えたり、心を奮い起こす原動力となったり、逆に相手を傷つけ落ち込ませたりと、言葉には、人の一生を左右するくらいの影響力があると考えています。

言葉は魔法の力をもっていて、よい言葉の環境で育つと、「自分を大切にし、他者を理解できる」、「自分に自信がもてる」、そんな生徒が育つと考えています。

人から発せられる言葉というのは、たやすく人の心に入り込んで、次の一歩が踏み出せず悩んでいるときには勇気の源となりますが、またその一方で、たった1人の中傷が大きな心の傷をつくってしまうなど、私たちが思う以上に大きな力をもっています。

言葉にはもともと言霊（ことだま）といった力があって、プラスの言葉を発すると自分を含めた周囲の環境がプラスに作用し、また否定的な（マイナス）言葉を発するとマイナスな面が現れるなど、声に出した言葉には、身の回りの環境に、何らかの影響を与えてしまうといった説があることはご承知のとおりです。

また、人が話す言葉は、その人の外見にも少なからず影響を与えているようにも思います。大人も子どももなく、きれいな言葉を話す人は内面もまた振る舞いも素敵です。きれいな言葉を心がけているうちに自然と表情や振る舞いが美しくなり、周囲にも安心感を与え、人としての内面が育っていくのかもしれない。

客観的に外から自分自身を見つめるということはとても難しいことです。ましてや怒っている時などは、一方的に自分の言い分だけを言葉にしている、相手の言葉すらも耳に入っていない自分があったりもします。相手の意見に逆らうのではなく、また安易に妥協するのでもなく、丁寧に言葉を交わし調整していく力が、中学生としても必要なのではないかと考えています。

本校では、学習・生活環境だけでなく、言語環境も整え、生徒たちをほめて、認めて、自分に自信がもてるよう応援していきます。

5月1日（土）から5日間ゴールデン・ウィークです。4月は1年生だけでなく、2、3年生の皆さんにとっても環境が大きく変わった1ヵ月でした。新しい生活に正面から向き合い一生懸命頑張ってきた皆さんですから、そろそろ疲れも出てくる頃です。連休中は、規則正しい生活を基本に、ほんの少し体と心を休める時間を見つけてください。家族との会話を大切に、心豊かな時間を過ごしてほしいと願っています。